

対談インタビュー

前編

『デジタル版美術資料』の
活用方法と可能性



前号のVol.17もあわせて
ぜひ、ご覧ください。

今号では、横田先生と藤田先生に、授業を振り返りながら、今後の『デジタル版美術資料』への展望についてご対談いただきました。



よこた まなぶ
横田 学 先生

『デジタル版美術資料』監修者、『美術資料』著者、
京都市立芸術大学名誉教授



ふじた すぐる
藤田 優 先生

三田学園中学校高等学校 教員
(兵庫県三田市)



美術の授業でのタブレット活用について

藤田先生の授業の指導案はコチラ▶

横田 今や中学生にとってコンピュータやスマホの活用は日常的であり、同時に GIGA スクール構想による生徒 1 人 1 台タブレットの環境が急速に導入されました。このような中で、生徒が実際にタブレットと『デジタル版美術資料』をどのように使えるようになっているのかがとても興味深くありました。

さて、今回の藤田先生の授業では、「学園に棲む精霊の仮面をつくろう」というお題でした。

授業の導入部分において、タブレットが使われていましたが、一連の授業（全体計画）の他の部分でもどのように活用することができますか？

藤田 「世界にはどんな仮面があるのか」という導入部分において、タブレットおよび『デジタル版美術資料』を活用しました。授業の大まかな流れと活用方法は以下の通りです。

.....生徒の活動
.....タブレット機能の活用
.....『デジタル版美術資料』の活用

1 ガイダンス

鑑賞／世界の仮面と祭り

世界にはどんな仮面があるのかを知り、仮面の形や色彩から感じるイメージを考える。

『デジタル版美術資料』から自分の気になる仮面を探し、その根拠をワークシートに記入する。

2 フィールドワーク・
発想する

カメラ、メモ

学園内を散策し、精霊の棲んでいそうな場所、アイデアの基になりそうな形や色彩を探す。

仮面のアイデアの基になる場所などを撮影する。

3 構想を練る

フィールドワークの写真や、そこから感じたことを基に、描画アプリの左右対称機能を活用しアイデアスケッチをする。

▶生徒の実践例



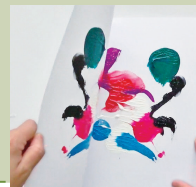
発想が難しいという生徒もなんとなく手を動かすことで、完成形が見えはじめ、効果的だった。

4 制作試行

動画／デカルコマニー他

デカルコマニーの練習。仮面の基礎形を作成。

必要に応じて『デジタル版美術資料』の技法動画を確認し、活用方法を身につける。



5 制作・仮面をつくる

カメラ、メモ

アイデアスケッチを確認しながら制作を進める。

毎授業の終わりに、制作中の仮面を記録として撮影する。

6 鑑賞・まとめ

カメラ、メモ

クラスメイトの素敵な仮面を見つけて写真を撮影、添付し、感想と根拠をワークシートに記述。

鑑賞した感想などをワークシートに記入する。
自分の制作も振り返り、まとめる。

横田 なるほど。この授業にかかわらず、機器の操作が不安だという先生方のお声もお聞きますが、タブレットの操作方法というより、教員が教育機器として使いこなすための教育方法をまだまだ研究しなければいけませんね。

生徒の作品例

▼ガイダンスでのワークシート記入

◆ いったい何者？

デジタル版美術資料P1039に掲載されている③～⑤、⑧～⑩、⑬～⑮の中から地域の真なる仮面を1つずつ選んでその特徴や性質について考えよう。

■その1

地域(アフリカ) 番号(③)

○この仮面の主はどんな性質を持っているそう？

③ 雨、(器、いいてる)

○仮面のどこからそう感じる？

③ 口が、おもしろい、おもしろい、おもしろい

★ほかの人の意見メモ

リングみたい

■その2

地域(日本) 番号(⑩)

○この仮面はどんな性格・感情を表している？

⑩ 笑顔、はやく

○仮面のどこからそう感じる？

⑩ おおきく、おもしろい、おもしろい

★ほかの人の意見メモ

おもしろい、おもしろい

『命の精霊』



『池の精霊』



▲「学園に棲む精霊の仮面」作品

精霊の棲む場所や性質から
発想して、色彩豊かに表現
されていますね！



『デジタル版美術資料』のよさとは？

横田 藤田先生の授業は「一斉学習」の場面と「個別学習」の場面とを上手く切り替えてとても有効な教授方法だと感じました。一斉学習ではプロジェクターを使って『デジタル版美術資料』を映し出すことで、「これからこれを基にやっていく」ことを生徒に提示し、個別学習ではそのページを自分なりに探索できるよう工夫されていました。

これまで教員がプロジェクターに映し出して指導することは見てきましたし、ウェブ検索において「世界の仮面を調べてみよう」ということはできます。

ここで、『デジタル版美術資料』を使うことのよさについて改めてどう思われますか？

藤田 生徒がウェブ検索で仮面を調べようとしたときに、どういうキーワードで検索すればよいのか分からなかったり、全世界的に偏りなく仮面を見ようとしたりするのはかなり難しいと思います。それを端的に『デジタル版美術資料』がまとめてくれています。

『デジタル版美術資料』では、
さまざまな視点での資料を
一覧できる

ウェブ検索では偏りがあるが、
『デジタル版美術資料』だと
全容を把握しやすい

(普段の好みに偏ることなく)
自分の新たな興味に気づき、
自分の表現を深めることに
繋げられる



横田 ウェブ検索はあらゆる教科や科目、総合的な学習の時間などで使われてきましたが、近年は「生徒が自分の好きなものばかり見るので授業にならない」といった先生方のお声もお聞きます。特に中学校1年生に「明確にこれを探そう」という意図を伝えるのは難しいように思います。

教科書は題材として、数の限られた図版を掲載しているのに対し、『デジタル版美術資料』は幅広く、また追加図版により資料性が高いです。生徒にとって選択の余地のあるコンテンツです。ゆえに授業としてこの範囲での探求や調べとなった時にはとても有効的でしょう。

NEXT

次号「まなび! net」では、引き続き横田先生と藤田先生の対談をお届けします。

秀学社の美術学習サポート

授業だけでなく家庭学習などにもご活用ください。

『デジタル版美術資料』

『美術資料』の内容とビュー機能で、
ICTを活用した新しい学びを実現！

体験版や商品
詳細はコチラ！



●『美術資料』の詳細や、ワークシートなど
各種ダウンロード資料を提供しています。
秀学社Webサイト
<https://www.shugakusha.co.jp/>

まなび! net へのご意見や
著者へのメッセージ、ご質問など、
「お問い合わせフォーム」より
お気軽にお寄せください。

先生の声
をお聞かせください。



お問い合わせフォーム

https://www.shugakusha.co.jp/form_otoiawase/

ココから！